

## 応募書類②

学生団体 Be-Corns! 角谷知咲

### 【活動のきっかけ・目的】

2013年に農学部畜産草地科学科の学生を中心に「現代の生活においておざなりにされつつある食の大切さについて畜産の視点から伝えたい」という思いから設立された。

「豚の飼育」を通して生産者の苦勞を知り、「食」について考え消費者に伝える。

また、年々後継者の減少している畜産分野について畜産の面白さ、すばらしさを多くの方々に伝え、農業に対する理解を増やす。

活動理念として、「いただきますの意味の追求」「生産者と消費者の懸け橋になる」「学びの連鎖を引き起こす」の3つを掲げている。

普段習慣となっている「いただきます」の意味について改めて深く考えることや、生産現場から食卓までに関わる人々の思い、苦勞を消費者に伝え、生産者と消費者を近づける。

また、自分たちが学んだこと、感じたこと、経験したことを自分たちの生の声を通して消費者に伝え、さらにその方々が別の人に伝えること、自分自身もより深く追求していくことで学びの連鎖を引き起こす。

## 【活動内容及び成果】

今年度は犬童農場から生後 3 か月の黒豚の雌豚と去勢豚を計 2 匹購入し、6 月から 10 月までの 4 か月間飼育し出荷した。三元豚以外の品種の飼養管理を行うことは初の試みであったため、体調管理が容易ではなかった。

Be-Corns!での飼養管理方法にはアニマルウェルフェアを考慮して放牧を取り入れている。放牧中に泥浴びをする。これは、豚のストレス軽減や体温調節に有効で、体に付着した寄生虫の除去も可能である。これにより、肉質の向上や肉質の向上につながる事が確認されている。

飼養管理の成果として、大学の講義で豚の性質や飼養管理方法等の座学では不十分な部分を補い、より理解を深めることができた。また、新たに疑問点や問題点等が浮上した際に、メンバー内で話し合い解決していくことで、より生産者に近い立場で活動することができた。

豚の飼養管理のほかにも、「いただきます」を世界共通語へ」を活動目的に掲げ、北海道を拠点に全国各地で活動を行っている家畜写真家 AKAPPLE(あかっふる)さんと交流した。

彼女と交流をすることで全国各地の農家について、彼女の写真・言葉を通して学ぶことができた。

お肉の一部を加工することも行っており、これまでにベーコンとソーセージへの加工を

行った。

昨年度出荷したお肉を宮崎経済連が主催する「食フェスタ in みやざき 2019」に出店し提供。団体メンバーの声を通して活動の中で学んだ食の大切さについて消費者に伝え、お肉は「おいしい」と好評をいただいた。

昨年度には、初の試みとして去勢豚に肥育後期から従来の飼料に変えてエムケイ商事さんにより購入した「ライスミールペレット」を去勢豚に給与した。これにより、雄本来の臭み・肉の硬さを抑え、大学祭にて官能評価を行った際には良い成績を得た。

また、3月には福岡県糸島市で開催された食育科学ワークショップ「ごはんの教室」にて、昨年度出荷したお肉を料理の食材として提供させていただき、食育講座として「いただきます」の意味や大切さを伝えた。豚についてのクイズや動物を殺して食べることを題材にした絵本の読み聞かせを行うことで、豚のことを知ってもらい、自身の五感で「いただきます」を考え、感じてもらうことができ、メンバーにも自分たちが伝えていることが伝わっていることを感じたとの声が上がった。

一昨年には、全6回にわたり UMK テレビ宮崎の「Oh 宮崎大地のチカラ」で Be-Corns! の活動を紹介していただいた。

なお、これらの活動はすべて団体メンバーの自主性によるものであり、さらなる学び畜産業の振興につながることを願っている。

## 【今後の展望】

Be-Corns!の活動は発足当初からメンバーの自主性により成り立っている。そのため、各自が日頃の大学の講義や豚の飼養管理、イベントでの消費者と交流を通して、学んだこと感じたことに加えて、屠畜場や加工会社見学を行い付加価値をつけていきたい。

また、自分たちの活動をきっかけに宮崎のブランド豚肉を知ってもらい、宮崎の畜産業を盛り上げていきたいと考えている。